

フィラリア について

フィラリアってなに？

フィラリアとは、日本語で犬糸状虫、英語ではハートワーム（心臓の虫）と言われるように、糸の様な形態をした虫で、動物に感染すると心臓や肺動脈に寄生します。

フィラリアが寄生したことによる病的な症状をフィラリア症と呼びます

フィラリアについてよく知って、フィラリア症を予防しましょう。

フィラリア症による主な症状

フィラリア症になると心臓や肺動脈に成虫が寄生するので循環が悪くなり、以下の症状が出ます。

咳が出る



疲れやすい

ぐったり…



元気がない

いらぬい…



食欲がない

お腹が膨らむ

呼吸が苦しそう



ポコッ

ただし、感染後6ヶ月間は症状がでません。

フィラリアのライフサイクル



参考:イベルメック説明書

① フィラリアの成虫が心臓や肺動脈に感染している犬の血液中には、フィラリアの幼虫(第一幼虫)がたくさんいます。このような犬から蚊が血を吸うと、第一幼虫は蚊の体内に入ります。

② フィラリアは蚊の体内で第三幼虫と呼ばれる段階まで成長します。第三幼虫になると、蚊が犬に吸いついた時にできる傷口から犬の体内へ侵入する力を持ちます。

③ 犬の体内へ侵入した第三幼虫は、犬の筋肉や皮下組織で第五幼虫まで成長し、その後血液中へ入って心臓まで運ばれます。

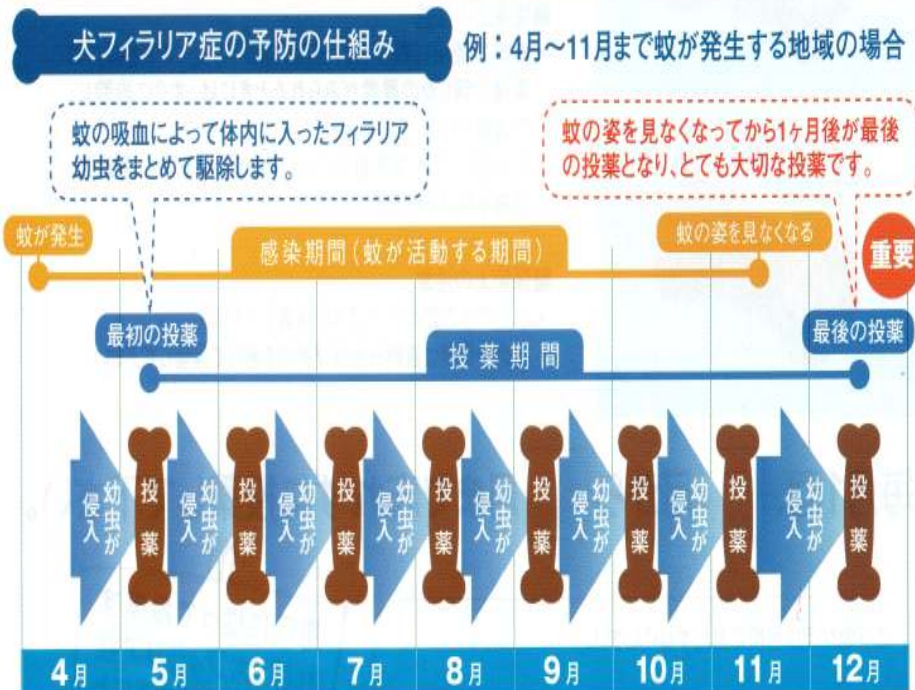
④ 心臓へ達した第五幼虫は肺動脈で成長し、長いそうめんのようなフィラリア成虫となります。成虫になってしまうと5~6年は寄生し、その間に第一幼虫を産みます。

フィラリア症を予防しよう!

フィラリア症を予防するには、フィラリア駆虫薬の投与が必要です。駆虫薬は犬の体内で第三幼虫から発育した第四幼虫に効果があります。ただし、第四幼虫の時期はたったの1-2ヶ月!!この時期に駆虫をしないと成虫になってしまいます。

また駆虫薬の効果は1ヶ月続くわけではなく1ヶ月ごとにいっせいに駆虫をするしくみです。

ですから、フィラリア症の予防に大切なのは1ヶ月ごとの投薬とその年最後の投薬日です。5月から12月までの駆虫を忘れずに!



※蚊の活動期間は地域によって異なりますので、必ず獣医師の指示に従ってください。

引用:イベルメックお薬のご案内

フィラリアの検査

フィラリアの検査は毎年必要?

毎年12月頃まで毎月しっかり駆虫している場合は、必ずしも検査が必要なわけではありません。

前の年は全く駆虫していなかった場合はもちろん、「途中で1回忘れてしまった!」「10月までは薬を飲ませたけれど…」「夏の間はちゃんと駆虫していたよ♪」という場合には検査が必要です。

また、毎年ちゃんと予防しているけれど「3年くらい検査していないからしらべておこうかな」「血液検査のついでにフィラリアの検査もしておこうかしら」とお考えの場合にはスタッフまでご相談下さい。

どんな検査?

採血をして2つの検査をします。

- ①フィラリア成虫が犬の体内にいますと、免疫応答が起こり、フィラリア成虫に対する抗体ができます。検査キットを用いて血液中の抗体の有無を調べます。
- ②フィラリアの第一幼虫が血液中にいるかどうかを、採取した血液を顕微鏡で観て確認します。

フィラリア駆虫薬は、様々なタイプ(錠剤・ジャーキー・スポット)があります。わんちゃんと飼い主様に合ったタイプをお選びしますので、ご相談下さい。

オハナ動物病院

TEL (052)801-9095